

2011年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	山崎 圭		
NAME	YAMAZAKI Kei		

1. 研究課題

（和文）近世幕府領の村・地域社会に関する研究

（英文）Local Administration of Bakufu Feudal Territories in Shinano Province

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究を通じて、北・東信濃幕府領を事例に、概ね以下の問題について検討し、一定の成果を得ることができた。

①地主山田家と村・地域社会の関係

大規模地主が個別契約の論理を強く主張して、従来の地主小作関係を拘束してきた共同体的な関係をとりはらっていかうとする動きに注目し、18世紀半ばの諸相論を検討した。その結果、地主山田家は諸相論を通じて証文・契約の重要性について認識を深めつつも、小作人全般に対して契約主義を徹底しなかったことを確認した。その点では近代のあり方と異なる側面が見出せた。

②藩境をこえた諸問題への地域の対応

中之条地域は千曲川から用水を引き利用しているが、この地域は松代藩領・上田藩領と境を接していたため、用水をめぐる相論や千曲川の洪水対策等の問題は藩をこえて解決しなければならなかった。境を接する当該村々に加えて幕領の郡中代や藩領の大庄屋等が代官所・藩役人も交えて交渉を繰り返した様子から、領域をこえた問題解決のあり方について具体的に知ることができた（この点は同時進行の科研の成果とも重複していることをお断りしておく）。

（英文）

In this study, we investigated the relationship between the community and landowners in the Edo period, it was confirmed that figure contend surrounding villages and landowners around the tenant territory specifically. In addition, I have also examined the response of the region to the problems beyond the border of the territory.

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

【学術論文】(著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)
山崎圭「近世北信濃の地主小作相論と幕府代官」(『中央史学』35号、p66-83、2012年3月)
山崎圭「日本近世の村・地域社会—幕府領の事例—」(『西洋史研究』41号、p203-214、 2012年11月)
【学会発表】(発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)
山崎圭「日本近世の村・地域社会—幕府領の事例—」(西洋史研究会、立教大学、 2011年11月13日)
山崎圭「篠田家と幕末の中野地域」(中野市教育委員会ふるさとレポート発表会、 長野県中野市2013年3月20日)
【図 書】(著者名、出版社名、書名、刊行年)
八王子市市史編集委員会編『新八王子市史・資料編・近世1』(八王子市、2013年4月刊行予定) 第三章「八王子を支配した領主」を担当。
【その他】(知的財産権、ニュースリリース等)
なし。